聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース

第 19 号　発行日：2011年１月　www.tsukuba-tech.ac.jp

国立大学法人
筑波技術大学

平成 22 年度障害学生支援大学長連絡会議を開催

11 月 13 日 土曜日、KKR ホテル仙台を会場として、本学と聴覚・視覚に障害のある学生への支援に関する連携・協力の協定を結んでいる国立大学法人宮城教育大学の協力を得て、「平成 22 年度障害学生支援大学長連絡会議」を開催しました。

今回は第３回目の開催で、新たに３つの教育大学が加わり、国立、私立大学合わせて 14 大学の学長や障害者支援担当者が出席し協議を行いました。

会議に先立ち、村上学長から、「障害学生数は年々増加傾向にあり、受け入れ大学の修学環境も着実に整備されつつあるが、まだまだ財政面など様々な問題を抱えている」旨のあいさつがありました。

次いで、愛媛大学水口和寿名誉教授による「大学運営と障害者支援 －ドラッカー理論を手掛かりに－」をテーマとした基調講演が行われた後、協議に入り、各大学の状況等を基に障害学生支援にかかわる人員配置や他部局との連携、今後の本会議運営の在り方などについて協議を行いました。

協議終了後、会議出席者は、宮城教育大学のキャンパスに移動し、同大学におけるしょうがい学生支援の理念やこれまでの取組みなどについて説明を受けるとともに、音声認識を用いた文字通訳のデモや「しょうがい学生支援室」の視察を行いました。

会議の様子

（総務課　前原　和雄）

連携・協力協定に基づく宮城教育大学学生との交流

12 月１日水曜日、２日木曜日の２日間、本学と連携協力に関する協定を今年３月に締結した宮城教育大学の学生 17 名と教職員６名が連携事業の一環として初めて来学しました。

初日は学長を表敬の後、聴覚障害学生が学ぶ天久保キャンパスの補聴相談室や字幕挿入室、図書館などの施設や授業を見学し、遠隔地リアルタイム字幕提示システムなどの説明を受けました。その後、学生同士の交流を深めるため、産業技術学部学生、保健科学部学生とのグループエンカウンターを行いました。これは宮城教育大学の学生が、手話や筆記を用いて産業技術学部学生と保健科学部学生の間のコミュニケーションを仲介し、自己紹介や将来の夢について語り合う内容です。殆どが初対面同士のグループとは思えない盛り上がりとなり、終了予定時間を超過するほどでした。グループエンカウンター終了後も、それぞれの学生が大学や学部の垣根を越えて語り合い、別れ際には「またね」と名残惜しそうに別れの挨拶をする姿が印象的でした。

グループエンカウンターの様子

２日目には、視覚障害学生が学ぶ春日キャンパスに移動し、支援機器室、体育館、図書館等の学内施設を見学し、視覚障害に配慮した工夫・環境等について説明を受けました。また、授業が実際に行われている教室では、個々の障害の程度や特性に応じた教材やパソコン環境などについての説明を受け、視覚障害学生がどの様な教材や障害補償機器の支援を受け学んでいるか熱心にメモを取りながら見学

をしました。点字教材や図面を触って理解するための触図作成、拡大読書器等の障害補償機器にも実際に触れ、熱心に質問を投げかけている様子が多くみられました。

今後、本学と宮城教育大学はさらに連携を深めるための様々な事業を展開する予定です。

（聴覚障害系支援課　井手　克美）

企業向け大学説明会を開催

● 開催の意義

10 月 13 日水曜日に、聴覚障害系就職委員会主催による企業向け大学説明会を実施し、52 社 72 名の人事担当者等が参加しました。この説明会は、各企業等の人事担当者等に本学の教育と学生の状況を理解していただき聴覚障害学生の雇用に当たっての参考としていただくと同時に、人事担当者等の意見・要望等を伺い本学の今後の教育及び就職指導の在り方を検討する際の指針とすることを目的に、毎年度実施しているものです。

● 説明会の状況

説明会は、全体説明会及び名刺・情報交換会を中心に、授業見学と施設見学が行われました。授業見学は、1 時限目から 3 時限目の計 31 科目（産業情報学科 22 科目、総合デザイン学科 9 科目）が公開されましたが、朝 9 時（1 時限目）から来られた人事担当者もあり、実際の教育場面と教育内容等に大きな関心のあることが示されました。

施設見学は、産業情報学部の産業情報学科及び総合デザイン学科の校舎棟の講義室及び実習室等（情報システム実習室、電子応用実験室、マイクロコンピュータ実験室、CAD/CAM 室（以上産業情報）、CG 実験室・実習室（以上総合デザイン））と補聴相談室、感覚補償システム開発（以上障害者高等教育支援センター）、が公開され、熱心に見学されていました。

全体説明会は、天久保キャンパス講堂で実施され、初めに村上学長からの挨拶に続き、渡部産業技術学部長から産業技術学部の概略と就職状況等について説明があり、最後に、石原聴覚障害系就職委員長から聴覚障害者の雇用に際しての留意点等の説明がありました。全体説明会のなかでは、石原委員長が行った聴覚障害者の音の聞こえ方のデモが聴覚障害を理解する上で大変に参考になったとの声が多く寄せられ非常に好評を博しました。

名刺・情報交換会は、午前（10 時～ 12 時）と午後（14 時～ 16 時）の 2 回に亘り、午前は管理棟大会議室、午後は食堂に 8 箇所（産業情報学科情報系 3 コース、システム工学系の電子システムと環境・安全コースが各 1 ブース 、設計加工及び機械の 2 コースが 1 ブース、総合デザイン学科の視覚伝達・生産・建築の各コース、職場適応相談、学科未定コーナー）の懇談ブースを設け実施しました。企業の人事担当者がいくつものコースの就職委員及び学科教員との間を周りながら、卒業生の就職活動に向けお互いに有益な情報の交換を行う姿が見受けられました。また、相談コーナーでは、企業現場での聴覚障害者の雇用上の問題点の相談や雇用実績のない企業が初めて聴覚障害者を受け入れるにあたっての助言等も行われ、各懇談ブースの前には列ができ、非常に盛況な交換会となりました。

今年度の特徴として、来年度の採用予定だけでなく、今年度就職未定者の採用等に向け積極的な情報交換が行われ、大学側にとっても、又企業側にとっても非常に意義のある説明会として位置づいてきたことが感じられました。

なお、名刺・情報交換会の会場には、昨年度に続き、保健科学部の懇談ブースも設けられ、訪れた企業の人事担当者に、本学の視覚障害学生の説明と今後の雇用促進に向けた懇談を行うことができ、非常に有意義な場となりました。

● 最後に

聴覚障害系就職委員会では、説明会に参加された企業の人事担当者にアンケート調査を実施し、①期日・日程、②内容実施方法等、③本学の就職指導・支援体制・教育全般への意見の 3 項目について意見を聴取しました。12 社から提出（回収率 23%）があり、実施への御礼や人材輩出への期待があると同時に、「授業や施設見学は、ツアーのような

全体会の様子

名刺交換会の様子

ものがあると良い」、「他の企業も交えての情報交換を行いたい」など実施方法等についての意見や、「自らコミュニケーションを取る姿勢や相手に興味を持つことの大切さを導いていただきたい」等の教育全般への指摘もありました。

今後、これらの指摘事項にあわせ、本学教職員の反省事項を生かし、学生の就職開拓に資するよりよい説明会の開催に向け、改善を図る予定です。

（聴覚障害系 就職委員会委員長　石原　保志）

第６回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催

11 月 14 日 日曜日、本学及び本学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、宮城教育大学との共催で、第６回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを仙台市で開催しました。今回は、教職員・学生などの支援関係者のみならず、前日に障害学生支援に関する大学長連絡会議が行われたため複数の大学の学長のご列席があり、300 人を越える参加者で大変盛況な会となりました。

● 分科会

午前は４つの分科会を行い（分科会１ 基礎講座「どうする？どうなる？ー受験～入学～授業ー」、分科会２「詳解！宮城教育大学ー理念から日々の取り組みまでー」、分科会３「一緒にスキルアップ！ーノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳ー」、分科会４「みんなで解決！現場の悩みー先輩・コーディネーターとともに考えるー」）、いずれの企画でも活発な意見交換が行われました。特に、分科会２では、宮城教育大学におけるしょうがい学生支援室設立の経緯や、学生ボランティア団体との協同など、聴覚障害学生支援の取り組みを様々な角度から詳細に紹介し、好評を博しました。また、分科会４では、事前に聴覚障害学生支援に関する悩みを募集し、当日は聴覚障害学生・支援学生・教職員に分かれて解決策を話し合うという初めての試みを行いました。参加者からは、同じ立場同士で深い話し合いが出来よかったとの声が聞かれました。

● 全体会

午後の全体会では２つの企画を行いました。

特別企画「徹底解剖！ PEPNet-Japanーあなたのギモンに答えますー」では、PEPNet-Japan 設立の経緯やその役割を振り返り、また、「聴覚障害学生が主体的に動いてくれないときはどうしたらよいのか？」「コーディネーターに必要な専門性とは？」など、PEPNet-Japan に多く寄せられる質問に一問一答形式で回答することで、参加者の理解を深めることができました。

分科会の様子

全体会の様子

特別対談「宮城教育大学学長と語るー大学教育と障害学生支援ー」では、宮城教育大学高橋孝助学長と同大学藤島省太教授が、特別支援教育マインドを持った学生を育てるという同大学のポリシーや、学生教育における障害学生支援の位置づけについて語りました。障害学生支援は教員養成課程を持つ大学としての責務であるという高橋学長のリーダーシップのもと、支援体制の充実が図られてきた様子がうかがわれ、草の根の活動もさることながら、トップダウンの重要性を再認識することができました。

● 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト

ランチセッションで実施した「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」では、15 団体が日頃の活動やその成果を発表しました。このうち、聴覚障害学生のエンパワメントについて発表した群馬大学が、最も多くの関心を集めた団体に贈られる PEPNet-Japan 賞に輝きました。受賞団体は以下の通りです。

- PEPNet-Japan 賞：群馬大学
- 準 PEPNet-Japan 賞：同志社大学
- アイディア賞：宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ
- Good プレゼンテーション賞：FKC friends
- PR・啓発グッズ部門：フェリス女学院大学

シンポジウムも今年で6回目を数え、回を重ねるごとに障害学生支援の広がりを感じます。今後も全国的な聴覚障害学生支援向上のために、情報を発信し、また、交流を重ねていきたいと思います。

（障害者高等教育研究支援センター
白澤　麻弓・石野　麻衣子）

大学間対抗国際ペーパーカーレースが開催される

テレビ会議システムで結んだ大学間対抗国際ペーパーカーレースが12月11日 土曜日に筑波学院大学を会場に開催されました。本学と筑波学院大学との対抗レースの会場と中国長春大学の会場とをテレビ会議システムで結び、同時中継しながらCAD（キャド：コンピュータの支援による設計製図）で作ったペーパーカーのスピードとデザインを競いました。このレースは、本学と筑波学院大学の学生がそれぞれの授業の中で学んでいるCADを通し、大学間の教育交流を図っているもので、今年で18回目となります。中国とのテレビ会議システムを用いての教育交流も今年で9回目、ペーパーカーレースのイベントは年中行事となり毎年楽しみな授業の一つとなっています。中国側では聴覚に障害を持つ長春大学・特殊教育学院の学生が作ったペーパーカーの中から25台が選抜され、国際中継に参加しています。

本学では機械設計製図演習の授業の中でCADを用いて製図をしていますが、CADの操作法の自己研鑽のためにも取り組ませています。与えられたレースや設計の条件に従って各人工夫を凝らして設計しCADの練習を兼ねながら、ペーパーカーの部品を作り、ケント紙に出力して切り抜き組み立て、モータ（FA-130マブチモータ）と単三電池2本を載せて輪ゴムを掛けたプーリによる動力伝達で走らせる紙の車です。全て紙（ケント紙）で作りますが車軸だけは直径5ミリの木の丸棒を用いています。形は自由ですが長さと幅が200ミリ以下と決まっています。各自設計したペーパーカーを持ち寄り、15メートルの直線コースで速さを競うタイムレースを行います。また、それぞれの車の走る様子やデザインと作りをテレビ会議システムを通して互いに紹介し、中国の学生の作った車を日本から、また日本の学生の作った車を中国から選んでもらい、それぞれの国のデザイン賞を決めます。

写真は集合記念写真でテレビ会議システムのモニタ画面は中国側の参加者

中国側の集合写真

それぞれの大学の学長賞をはじめ、デザイン賞、技術賞などが本学村上学長から授与されました。タイムレースの優勝は青木純也さん（筑波技術大）の3秒89でこれまでの大会新記録です。中国側の優勝者は周井明さん。日本側選出のデザイン賞（中国車）はハマー戦車の形をスケール模型のように精巧に作った王家明さん、孫海さんのチーム。中国側選出のデザイン賞（日本車）はテレビモニタに映し出された模様から花の車と言われて選出された堀田将司さんの車「ぐるぐる」で、CADの機能を用いて作図したきれいな渦巻き状の模様が車全面に描かれていました。筑波学院大学との対抗戦は今年も上位入賞者数の比較で総合優勝は本学に決まりました。

（産業情報学科　荒木　勉）

「エコシティつくばマラソン」におけるマッサージボランティア実習

11月28日 日曜日に行われた第30回エコシティつくばマラソンにおいて、本学の鍼灸学専攻の2・3年次生と東西医学統合医療センター研修生がボランティアマッサージを提供しました。この事業は本学とつくば市が結んでいる連携協定に基づき、つくば市役所市民部スポーツ振興課との共同企画として実施され、本学からは学生14名、センター研修生5名、教職員9名が参加しました。

今年は好天に恵まれたため、昨年にも増して200余名のランナー達にマッサージやストレッチングの施術を提供することが出来ました。初めて参加した昨年は雨天と寒さに

悩まされたのでこれを良い経験として、今年はつくば市から物品支援をお願いし万全の体制を取ったことで、数多くのランナー達に快適な施術を提供することが出来たと考えています。それでも午後２時前後には予想を超える希望者が有りランナー達の待ち時間が長くなったので、つくば市から提供されたテント内のベッドだけではなく青空の下でも施術が行われました。

大学ののぼりに囲まれた野外でのストレッチ施術風景

このマッサージボランティア活動に際し、鍼灸学専攻の学生は担当教員より競技後マッサージの実習と講義を受けたうえで、学生には授業の一環として位置づけることで、マラソンランナーに対する競技後マッサージ施術の体験型学習のみならず地域社会への社会貢献という双方の意味を持たせる事にしました。また、学内からは社会貢献委員会から「のぼり」の提供を、広報室からは学章の入ったジャンパーの貸与を受け、視覚的にも地域に於ける本学の社会貢献活動のアピールが出来ました。

（保健学科鍼灸専攻　野口　栄太郎）

●『モバイル型遠隔情報保障システム』普及事業が「第７回パートナーシップ大賞」にてグランプリを受賞

● 本学の三好准教授が代表を務める『モバイル型遠隔情報保障システム普及事業』が、11 月 27 日土曜日に行われた NPO 法人 パートナーシップ・サポートセンター（以下、PCS）の主催する「第７回パートナーシップ大賞」にてグランプリを受賞しました。この事業は本学とソフトバンクモバイル株式会社、NPO 法人 長野サマライズ・センターをはじめ、更に国立大学法人 群馬大学、国立大学法人 東京大学、情報保障グループ MCC HabneT が加わり、共同で実施している事業です。

PSC は、NPO と企業・行政とのパートナーシップをはじめ、あらゆる場におけるパートナーシップを確立、活性化することにより、新しい市民社会の実現に寄与しようとする NPO 法人です。今年で７回目を迎える「パートナーシップ大賞」は、「NPO と企業のパートナーシップ推進」をミッションに、新しい市民社会・新しい公共の実現に寄与することを目指し創設されたものです。NPO 法人と企業の優れたパートナーシップの事例を選出し表彰することにより、営利と非営利の「協働」の意味や価値、重要性を社会にアピールし、両者の協働を推進することを目的としています。

このたびの最優秀賞の受賞は、「モバイル型遠隔情報保障システム普及事業」が、PSC の掲げる「NPO と企業のパートナーシップ推進」というミッションに合致していた点が、高く評価されたものです。特に本事業では、「NPO」と「企業」間に、「大学」のパートナーシップも加わり、３者間での協働事業という点が、今後のパートナーシップの在り方の良い見本になると評価されました。また、審査員からは全国 30 事業の内、最終選考に残った６事業の中で、「最も発展性を感じる事業である」というコメントも頂きました。

『モバイル型遠隔情報保障システム』（図１参照）は、聴覚障がいのある方が学校の講義などを受ける際に、２名の通訳者が連携しながら話者の言葉を要約してパソコン画面に字幕化する「パソコン要約筆記」を、携帯電話を使って遠隔で行うシステムです（音声認識技術とも組み合わせ可能）。本システムにより、利用者は、移動しながら利用できるという携帯電話の利便性を活かし、これまで以上に簡便に遠隔による情報保障を受けられるようになりました。また、屋内外を問わず移動を伴うような状況下、例えばガイド付きの学外見学や観光ツアーのような局面で有効であることが判っています。

現在のところ、複数の大学での試用や企業での有償利用

図１ 『モバイル型遠隔情報保障システム』の概略図

写真１　授賞式の様子

が始まっており、初等・中等教育の現場でも様々な問題解決に役立っています。今後は、情報保障サービス提供のための体制の強化などに努めて行く予定です。

本学では、障害者高等教育研究支援センター・障害者支援研究部の三好准教授を始め、主に磯田特任助手、蓮池特任助手、白澤准教授、産業技術学部・河野准教授が参加しています。

写真１は授賞式の様子であり、中央前列の３名が我々の受賞した事業メンバーです。左からソフトバンクモバイル側代表、長野サマライズセンター代表、そして本学代表です。

（障害者高等教育研究支援センター　石原　保志）

平成 22 年度学園祭を開催

平成 22 年度筑波技術大学学園祭が、天久保キャンパス学園祭「天龍祭」は、11 月 5 日 金曜日から 11 月 7 日 日曜日 春日キャンパス学園祭「春日祭」は、11 月 13 日土曜日と 14 日 日曜日に各キャンパスで開催されました。

天久保キャンパス学園祭は、今年度テーマを「為虎添翼（強いものに、さらに勢いをつけること。虎に翼を添えると、もうかなう者はいない。）」とし、“虎が大地を強く翔け上がり、龍のいる高みへと向かっていくために、一人ひとりが翼となり、仲間と共に学園祭を盛り上げて行こう”との思いが込められました。

春日キャンパス学園祭は、今年度テーマを「絆」とし、今年度から「大学院」の学生も新たに加わり、たくさんの学生が力を合わせ一つとなる強い結びつきが感じられる学園祭となるようにとの思いが込められました。

天久保キャンパス学園祭での模擬店の様子

当日は、各キャンパスで恒例となった企画に加え、互いのキャンパスに出店する企画もあり、聴覚系と視覚系の交流を図る良い機会にもなりました。

両キャンパス共に実行委員を中心に仲間と作り上げた様々な企画にエールをおくるがごとく、すばらしい天候にも恵まれ、学内外から訪れた多くの人で賑わった２日間でした。

【天久保キャンパスの主な企画】

- 「米内山昭宏」氏講演会、手話スピーチコンテスト、ステージ実行委員企画
- ファッションショー、ダンスショー、手話コーラス、デフラグビー
- 授業等で作成した作品展示など
- 各種模擬店
- 手技療法・検査方法を体験してみよう（視覚からの出店）

【春日キャンパスの主な企画】

- 太極拳表演会、コンサートなど
- あん摩・マッサージ、オイルマッサージ体験コーナー
- 視覚障害補助機器の展示、盲導犬の紹介、イラスト展示など
- 各種模擬店（聴覚からの出店含）

（学生委員会委員長　森山　朝正）

お知らせ

今後の入学試験日程については次のとおりです。

個別学力検査（前期日程）

出願期間　１月 24 日（月）～２月２日（水）

試験日　　２月 25 日（金）

合格発表　３月 ７ 日（月）

なお、上記試験については、平成 23 年度大学入試センター試験の本学が指定する教科・科目を受験していることが必要です。

筑波技術大学ニュース　第19号　　発行　筑波技術大学　広報室　　編集　筑波技術大学　総務課
発行日　平成23(2011)年1月　　〒305-8520　茨城県つくば市天久保４丁目 3-15　　URL http://www.tsukuba-tech.ac.jp/
E-Mail　kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp　　Tel　029-858-9424　　Fax　029-858-9312